中務より西屋敷の弐拾貫目より
下向後は孫忠を後へ一家の子同前に思
召へき旨仰下されられは家督相続有り
難有に私六十に余り候へとも万民の為よろ
しきを以仮に相続致し候て中
一子も相中さん迄家祖の業績を保ちんとて
手様の所業を企て中只今度の出奉願まつ
出服を下されしと達て訴申事は
御光公御存おく思召なる所より後は強て
財産も御仕切申御知より為なるが帝後家の

金毛山は金剛山

一子に所領金銀城砦宝刀の如房童の頃近
服を出し一所懸命て家は大和国金峯山より引
義出家と為と云へく小笠原左金吾といふ者
言伝者の中の中や金吾は左衛門の唐名之
但古信私より称を一事まて時の第まはあ
をと云へしは人并主従五人
は中務の つ為なるにや
一大白山吉祥寺
板井川村よりあり吉祥寺と云一人
是原一通と面同七石又半内六石
是原一通と面同七石又半見出所下寺は多之